



発行
県立加古川中学校
県立加古川東高校
清流会
編集
清流会文化委員会
印刷
丸山印刷株式会社

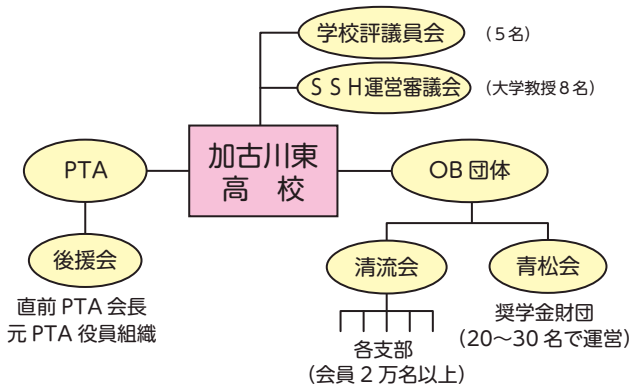


最大の団体としての責任

清流会会長 大庫隆夫（高28回）



1. 加古川東高校を支える
諸団体・委員会の構図



2. 清流会活動の要は

全国各支部である！

(1) 加古川東高校を卒業した若者は、大都会へ行く。であるから、東京・大阪 両支部が重要。更には、名古屋・京都・神戸には支部設立が必要と考えるのである。

(2) 職域支部も公認していきたい。神戸市役所・加古川市役所も支部になっていただき、将来は神戸支部・加古川支部の母体となつていただきたい。

(3) 各エリア支部には、卒業生だけでなく在学中の学生も支部活動に呼んでいただきたい。例えば、京都には京大・立命・同志社等々おそろく100名以上の現役学生が居る。彼らと在京清流会会員のつながりを何とか作りたいものである。

3. 清流会活動を

活性化させるべし！

本部・各支部・職域或いは同好会活動を活発にしてアクティブな参加者を増やそう！楽しければ人は集まり年会費も集まる。皆さんのご理解ご協力をお願いしたい。



4. 予告 今年の総会講演者

竹花豊氏（高20回卒）

石原都政の副知事、警察庁と警視庁の幹部を歴任、大分・広島県警本部長等々を歴任された竹花氏に在職中のエピソード等々を語っていただくことになりました。

8月4日総会に、皆さん奮ってご参加ください。

学校長あいさつ



今春、赴任いたしました
清瀬欣之（きよせよしゆき）と申します。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

新元号「令和」が始まりました。令（美しく、麗しく）和（心を寄せ合う）という恒久平和の中での夢や希望に満ちた社会づくりに向け、本校の教育を二層推進してまいります。

今の日本の人口は平成20年（2008年）をピークに減少を始め、令和7年（2025年）までに約700万人減少するとともに、65歳以上の高齢者は3,500万人を突破すると予想されています。さらに令和7年には、団塊の世代が75歳を超えて後期高齢者となるため、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という「超高齢化社会」が到来することになります。そうすると、労働人口の減少、高齢者の一人暮らしや認知症の増加、医療・保険・年金制度の破綻などの大きな問題に直面することになります。

いまや近い将来となったこれらの課題に対応するには、若い世代が「社会経済システムの持続可能性」に正面から向き合って対応策を見出し、いかねばなりません。今後の中等教育においては、知識を集約し、統合・整理した上で、既存の枠組みを超え

校長 清瀬 欣之

て、何が必要かを考え、積極的に新たなものを創造する態度を育んでいく必要があります。

本校では、本年度から開校100周年を迎える令和6年までの5年間（令和元～5年）における教育ビジョンとして「将来において『正解』のない社会を切り拓く人づくり」を策定しました。「自治創造―批判的思考力」、「明朗親和―人間的魅力」を基に、未来社会へ「挑戦する勇氣」を持った生徒の育成に教職員一丸となつて取り組む所存です。

大庫隆夫会長様を始め清流会会員の皆様には、これまでから本校の教育活動にご理解をいただき、多大なご支援、ご協力をいただいております。「ふるさと納税」では県内有数の多額の寄付を頂き、普通教室にプロジェクトを整備するなど学校環境の充実のため有効に活用させていただき、心からお礼申し上げます。今後ともご理解、ご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。



地域・職域支部だより

●東京支部「過去最多302名の同窓生の集い2018」

支部長 松井 昭憲（高30回）

「300名を超えよう!!!」

一昨年の東京支部の同窓会である「同窓生の集い」の慰労会兼反省会でおもむろに切り出した。何の確信も無かったが、支部長として強いメッセージが必要だと思った。

私が2004年に支部長を拝命した初年度は116名の参加であった。多ければ良い訳ではないが、数がパワーになる時もある。以来15年間、平成の半分を支部長として勤めて来たが、直近の7年連続を含む8年は参加者で200名を超えた。しかしながら300名には、何故か後一步足らなかった。

私の「無茶振り」から支部の役員・支部長スタッフは、目玉のゲストスピーカー（日本テレビ・政治部解説委員の小西美穂さん）の選定は勿論、東京支部の強みである年次幹事をダブル配置するなどあらゆる工夫を尽くしてくれた。

結果、2018年11月9日の当日では春の新卒者・高70回生8名を含めて総勢302名の参加を得た。

これは東京支部では初め

で、また本部を含めた清流会の長い歴史の中でも快挙になったと思う。知恵を絞って、東京支部の役員・支部長スタッフ、強力な集客力を發揮して頂いた年次幹事、快く当日の受け付けを引き受けてくれた若手の皆さん、クイズの豪華な懸賞品を提供頂いた皆さん、そして加古川から手厚い支援をして頂いた本部や学校の皆さん全員に、改めて感謝致します。

今年のもう一つのビッグニュースは高25回・渋谷秀樹氏（立教大学・大学院教授）の著書「憲法への招待」が全国の高校「現代文B」教科書に採用された事。母校でも生徒さんが先輩の著書を授業で学んでいる。この快挙をきっかけに、東高図書室にも卒業生の書いた本が寄せられた「清流文庫」を実現して頂いた。これから末永く清流会の良き伝統となつて欲しいと願います。

最後に提言とお願い。長らく東京支部長をさせて頂いてつくづく必要だと思うのは次の3点。

1つ目は支部の財政問題。特に東京は物価も高く活発な支部活動を支える健全な財政の裏付けは必須。2つ目は、加古川からの情報支援。特に新卒の上京者の情報は大切。3つ目は過度な負担を一部の個人に集中しないような組織づくり。

この中で、財政問題は本部でも既に取上げられており、大庫会長が創設された評議員制度での今後の議論を待ちたい。

また、私個人としては令和の時代に相応しい東京支部のNext Generationのサポートを最後の仕事としたい。

今年の「東京支部・同窓生の集い2019」は11月8日（金）です。是非東日本一円、加古川からもご参加下さい。（ピムコ・ジャパン・リミテッド取締役最高経営責任者）



●大阪支部 平成三十年度

支部長 山本 俊輔（高25回）

平成30年度大阪清流会総会は総勢61名の盛会でした。今年は大阪大学医学部臨床教授として後進の指導をされながら、大阪南医療センター内科医長として活躍されている高校26回卒業の幸原晴彦氏をお迎えしました。

テーマは「健康よもやま話」先生の新聞記事「脂肪は心の鎧」の他、健康に関するお話をリストの中からリクエストを募りお話いただきました。

とで、皆さん改めて健康についての大切さを実感され、これからの生き方を考えるよい機会になったと思います。

次に岡山清流会本部副会長より清流会本部の活動等について、佐野教頭先生より母校後輩の活躍ぶりについて近況報告していただきました。

恒例のラッキー抽選会では、ふるさとの銘菓や同窓生の造られたお酒など、豪華な景品に、司会の糟谷千恵子さんを中心に大変盛り上がりしました。

締めくくりは、高らかに中学校歌を斉



●奈良支部《小さな会ですが古都連合に向けて続けています》

わかくさ会 会長 板倉 白雨(高18回)

今年、元号が平成から令和に変わった。

令和が『万葉集』からの引用だと報道されると、本屋には早くも『万葉集』関係の出版物があふれ、人々の関心も『万葉集』へ目を向けている。

その『万葉集』に印南国原と奈良との因縁が記されている。中大兄皇子の歌である。詠まれた歌は大和三山の恋争い伝承と『播磨国風土記』のその仲裁伝承に関するものだという。

我々が居を置く奈良の地と、母校の地が斯くも昔から縁があったなんて、何かしらわくわくしてくる。

清流会奈良支部を「わかくさ会」と称して毎年9月の第一日曜日に、総会と懇親会を開催している。

平成最後の会は昨年9月2日に近鉄奈良駅近くの四季旬菜大和路で行った。

参加人数は少なかったが、本校からは小南克己校長先生と井上浩義校内幹事を、本部からは、大庫隆夫会



長と岡田義則副会長をお迎えしての賑やかな会を開くことができた。

先生方には遠路お越しいただきありがとうございます。

古都連合初会合になるところだったが京都から参加者がキャンセルになり翌年に期待することになった。

令和元年の初会合、加古川在住の同窓に講演をお願いしている。古都連合の佳い始まりになればと思っています。

●姫路支部総会

支部長 平田 建喜(高19回・弁護士)

開催日

平成31年2月15日(金)

開催場所

キャッスルグランヴィリオホテル

大庫本部会長らご臨席の下、総数31名で開催。平田支部長、本部関係者のご挨拶に続き、会計担当者の会計報告等のあと来賓三木英一先生の

乾杯で懇親会へ。

庄司会員(高25回)の司会で進行し、昨年に続いてお招きした島崎純子さん(高43回)のピアノ演奏で、若手会員を中心に皆でカラオケに興じ、

昨年より出席者が減少したのを感じさせないほどの大騒ぎの同窓会となり、最後は、いつものように校歌斉唱、記念撮影をして終了した。



●明石支部

榎本 雅子(高42回)

平成31年の総会を2月14日に西明石のホテルにおいて開催いたしました。本部から大庫会長、鈴木副会長、母校から小南校長先生、松下先生にお越しいただき、中17回生から高49回生までの48名が参加しました。

母校の近況報告や森本支部長(高21回)に「世界水紀行―モロッコ編―」と題し、8日間、約2,000キロにわたるモロッコの地下水路(フオガラ：一般的にはカナート)を巡る旅、特に砂漠に挑んだ人間の知恵の凄さに改めて感動したことに

ついて、沢山の映像を交えながらお話しいただきました。

その後の懇談会では、今年度は出身中学校毎にテーブルを配置し、回生を超えた交流を深め、和やかな雰囲気の中、あつという間に楽しい時間過ぎ、校歌を斉唱、記念撮影の後、閉会しました。



●稲美支部

支部長 西川 征志郎（高12回）

第30回支部総会を30年7月1日（日）、稲美町コミュニティセンターにて開催しました。当日は本部から岡山幸義副会長、母校から小南克己校長、鶴飼義人校内幹事にお越しいただきました。参加者は73名。平成元年の稲美支部結成から歴史を積み重ね、現在に至りましたこと、諸先輩方のご尽力の賜物と厚く御礼申し上げます。第一部では、前年の高砂市ウォーキング報告、秋の播磨町ウォーキングの説明等がありました。



12月4日、平成30年度県庁支部総会が、ホテル北野プラザ六甲荘で開催された。会員数は276名、当日は来賓として、名誉会員の釜谷、岡南県議会議員、清流会本部から岡田、鈴木両副会長、加古川市から藤田代表監査委員、小南校長等をお迎えし、74名が参加。会長の畠人事委員会事務局長の挨拶に続き、役員改選が行われ、新会長に私古川但馬県民局長が選任された。県庁内で最大勢力となっており、来る創立100周年に向け、5年計画で参加者1000人超えを目指すと呼びかけ

●平成30年度県庁支部総会

～同窓の絆を確かめるのに～

支部長 古川 直行（高30回）

た。小南校長からの母校の近況報告の後、岡田副会長の発声で乾杯。

和やかに交流が進む中、新規採用職員6名からの今後の抱負などフレッシュな挨拶で盛り上がり、最後に、元応援団の吉田健祐さん（高65回）によるエールに続き、全員で声高らかに校歌を斉唱し、同窓の絆を深めた。

●神戸教職員支部

松井 勝美（高24回）

平成30年度清流会神戸教職員支部の総会懇親会が、平成31年2月23日（土）午後6時より、神戸駅前前の天安閣にて開催されました。清流会副会長の大西淳滋郎氏のご挨拶に続き、母校校長の小南克己氏、教頭の佐野正明氏より近況報告をいただきました。後輩達の活躍ぶりに一同大いに感心させられ、母校の発展を祈念して、乾杯の運びとなりました。



第二部は大西奉文氏（高26回、大西メデイカルクリニック院長）に講演「生涯現役「ガンの早期発見と寝たきり予防のために」」をお願いしました。専門の整形外科分野での治療や、多くの医療・介護施設の運営から得られた知見をもとに、生活習慣病の予防「楽しく元気に」の精神の



今年度の支部総会・年次会など

東京支部	2019年11月8日 アルカディア市ケ谷	松井 昭憲
大阪支部	2019年9月28日 大阪神仙閣	山本 俊輔
奈良支部	2019年9月1日	板倉 白雨
姫路支部	2020年2月	平田 建喜
明石支部	2020年2月13日 キャスルプラザ	森本 真一
稲美支部	2019年7月7日 稲美町コミュニティセンター	西川征志郎
県庁支部	2019年10月	古川 直行
神戸教職員支部	2020年2月22日	池田 浩二
三井住友銀行	未 定	岸本 享祐
高10回	2019年9月16日	神吉 省三
高25回	2020年1月3日	澤田 敏郎



●三井住友銀行支部

大瀨 良平（高48回）

2018年度につきましては、当支部会長交代に伴い、支部会長東京在住につき当支部（関西中心）は総会開催困難であり、未開催であります。2019年度は、5月6月に開催を予定しております。

以上より、誠に申し訳ございませんが、今年度の総会のご報告は出来ない状況でございます。



年次会だより

中21・高1

平成30年度同窓会

大西 賢一

毎年開催している同窓会であるが久しぶりに地元加古川でとの希望もあり、今年は加古川プラザホテル『東京田村』で開催した。

案内の返事には体調不良、病氣療養中の方が多く、参加者は毎年減少しているが、今年は一名増加して12名の参加となりました、しかし今年も5名の方が亡くなられ90才ともなると、仕方

のないことかも知れませんが、久しぶりの加古川での開催であり、懐かしさ尽きぬ話でもり上がり終始和やかな雰囲気の中で時間が過ぎていきました。最後に校歌『流れてつきぬ加古川の川』を斉唱して来年の再会を約して別れました。

来年は加古川組が担当で実施します。



(参加者)

井上 禮次郎 (三木)
岩本 隆夫 (加古川)
植田 毅 (神戸)
大西 賢一 (明石)
金川 俊成 (加古川)
小南 通員 (加古川)
竹内 隆 (神戸)
玉垣 喜三 (尼崎)
仁川 和良 (加古川)
西野 和豊 (高砂)
宮永 弘兄 (加古川)
森玉 武文 (神戸)

以上12名 (敬称略)

高3回

もつこりた

(燦三会)

年次幹事 畑谷 芊一

「忘己利他」と瀬戸内寂聴さんが話された。調べると「己を忘れて、他に尽くせ」だった。

同窓会は、その一番の場であるかもしれない。会の世話をし、出合いの機会を作り、交友・交遊の輪を広げる。

しかし、歳々年々人同じからずで、女子は微減、男子は半減し、残る1/3は音信不通、1/3が病床、辛うじて20名弱の中の一病息災が集まる。

会は少数老兵となり、談論風発はなく、美(微)食を前にして静かに話し合っている。

自己紹介では、病気を克服しての日常や、健康談義、社会奉仕等の現況報告があった。

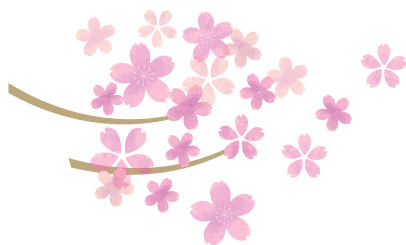
「歩く歌」「里の秋」「鈴懸の径」等を元気に唱和し、お互いの健勝を願って別れた。

燦三会が、飽くなく生き続ける目標になればと思う。

「もうはまたなり」「まだはもうなり」だが、米寿を前に「まだこりず」に会を続ける。

次回 令和元年11月3日(日)

「年々歳々花相似たり 歳々年々人同じからず」



高6回

老春をたのしむ

前田 功

新元号まであと数日を残すのみとなった4月23日、今では恒例になっている高6回卒業生の同窓会をもった。いわば平成最後の同窓会である。

参加会は41名。プラザホテルの一階のホールで行った。

ここ6年ほど前年実施してきたがこのホールでの開催は初めてであった。もう83歳と高齢になってきたのでその日の体調によつては欠席するかもしれないというような返事もあったが、千葉、東京、横浜など遠方からの参加もあり、いつものように会の雰囲気は盛り上がった。

顔を合わせれば、みんな自分の体調のことなどすっかり忘れて好き勝手なおしゃべりに花を咲かせ、老春をたのしむこととなった。中には、同窓生でグラウンドゴルフに参加しようと呼びかけるものもいた。高齢者のグラウンドゴルフは今盛んであるだけにグループを組んでやると楽しいだろうなと思いがから聞いていた。しかし、何といてもうれしかったのは、これま



で参加しなかったものが顔を思い出してくれたことであった。元気をもらった思いであった。

桜吹雪、はなみずき、牡丹など季節ははなやかに過ぎていく。この季節の移ろいが、このごろ特にはよく感じられる。来年もまた元気で顔を合わせることができると祈って閉会した。

高8回

代表幹事 富田 鉄哉

『朋あり遠方より来る、また楽しからずや』人生の楽しみの一つは、友人とともに酒をくみかわし、歓談することであろう。各種事情で遠隔地に住まざるを得ないこともあり、さいたま、名古屋、滋賀、そのような遠い場所から、また久方ぶりの近場から訪ねてきた学友と、生きている証の証明、近況報告、意見交換したりするのは、同窓会の目的の一つであろう。

つたり、高3回生畑谷幸一先輩提供のユニークな資料(過去の加古等)で話題も膨らみ近況を話し合ったりと楽しい時間が経過した。応援歌「日岡の山に陽は映えて」作詞した西島(逸見)三恵さんも参加。楽譜が見つからず伴奏できなかったが、数名の方のリードで応援歌と校歌を歌う。風邪ひくな、イライラするな、転ぶな、無理するな、泣きごとと言うな、を心がけて2年後のオリンピック年での再会を約して閉会した。

参加者52名(男子35名、女子17名)卒業生366名(男子4クラス215名、女子3クラス151名) 対外的には男女共学、内部別では男子校、女子校。この年になっても受付で異性確認があやふやであった。来賓として、大庫隆夫清流会会長、佐野正明教頭のご臨席を賜り大いに会を盛り上げていただいた。特に同窓会費納入促進の依頼を受けた。物故者88名 鶴林寺 幹栄盛長老により冥福を祈り黙祷を捧げた。 診察券や薬の数で優劣を競



高9回

80歳記念同窓会

幹事 十倉 茂明

昭和32年卒業の9回生は80歳になる。今の日本は、未曾有の長寿社会を迎えた。『百歳人生』と言う大海を海図を持たずに航海することになる。日々の生活、自身の健康、介護などそこにあるのは悠々自適の老後という牧歌的な世界ではない。残りの人生をいかに生きるかという、重苦しい課題だ。これまでの古典や哲学、人生論をあてはめることはできない。これからの人

生下山の時期は『孤高』の時間を楽しみ、老いに伴う体や心の不調を穏やかに受け入れ、自立した生き方を心がけ、青春時代の甘酸っぱい出会いに想いを馳せる。社会的なしがらみからは身を引き、自分の想いに忠実に生きていく。80歳は自分ファーストだ。こんな思いのもと、平成30年9月27日プラザホテルに76名が集まった。



司会をする角田忠徳君。高校野球県予選でベスト4に残ったときのエースだ。

高校10回卒業生の皆様へ
傘寿記念同窓会のお知らせ

令和元年(2019年)9月16日(敬老の日)に傘寿記念同窓会を加古川プラザホテルにて11時から開催します。多くの皆様のご出席をお待ちしております。詳細は後日、ご連絡いたします。これまでほぼ、5年毎に同窓会を実施していましたが、喜寿同窓会から早くも3年を経過した今年、傘寿を記念して同窓会を計画いたしました。

次の節目は8年後の米寿、残り少ないこれからの人生、同窓の皆さんとお会いすることを楽しみにしております。

傘寿記念同窓会 発起人一同

高11回

平成最後の年

年次幹事 内田 明美

秋晴れの平成30年10月17日、第11回生の18回目の同窓会が加古川プラザホテルで開催されました。前回(1年半前)の同窓会から8名減の78名の参加者となりましたが、今回初めて清流会会長の大庫隆夫氏にご臨席いただき、樽本庄一氏の司会で開会すれば学生時代に戻ったかと錯覚するような楽しい時間を過ごしました。

1回目の同窓会が開催されたのは高校を卒業してちょうど20年目の年、久々に会う同級生の姿に一喜一憂(笑)したものでした。あれから40年、資料作成では後藤太原磨氏と杉本元美さんのご尽力いただき今まで続けて来られました。が、寄る年波には勝てず、幹事の体にもあちこちにガタがきています。本当に残念ですがこのような大規模な同窓会は、次回で最後になるでしょう。つきましては、次回の同窓会を盛大に開催するため、くれぐれもご自愛くださいませ。



高14回

第9回同窓会

大岩 紘

平成30年9月24日(月)正午より加古川プラザホテルにおいて、平成最後の第9回同窓会を開催しました。今年はほとんどが後期高齢者の丁度75歳を迎えます。

65名が出席の下、冒頭、前

の間の4名の訃報が報告されました。第1部は記念撮影、開会の辞、物故者のための黙祷、世話人挨拶・乾杯、歓談タイム、校歌斉唱、閉会の辞の順序で約2時間、高校時代に戻りました。その後、地下の加古川倶楽部に場所を変えて二次会を行い、40名が参加しました。



次回は年号が新しくなった3年後、みんなそろって再会できるよう約束し散会しました。

高24回

平成最後の同窓会

代表幹事 小林 泰造

8月12日、加古川プラザホテルにて第6回同窓会を開催しました。

全国から集まった87名も前期高齢者になりました。出席いただいた三木英一先生、茨木信行先生、橘幸男先生もますますお元気で会を盛りあげてくださいました。

例年、1組から9組までクラスごとに近況報告をするのですが、各々の一言が年とともに長くなっているようです。

清流24同窓会グループラインを作成したり、集合写真を当日に手渡すことができました、約20名の幹事を中心に賑やかな会になりました。



高26回

20年ぶりの開催に150名

加古 博志

本年3月9日(土)に加古川市尾上町のミル・アンジュで約20年ぶりの同窓会を開催しました。松井賢先生、村田和繁先生、森元述先生、小林英之先生、橘幸男先生、岡田敏康先生にもお越しいただき、150名の同窓生とともに再会を喜び合いました。

で校歌を斉唱し、舩賀文博君の閉会あいさつ、下村浩司君による記念撮影と、あつという間の3時間でした。昔話に花が咲き名残が尽きませんが、再会を誓い合い閉会となりました。

島房生君と角谷雅恵さんによるユーモアあふれる司会で進行し、大山健次君の開会あいさつ、村田和繁先生の恩師代表あいさつ、そして福田一夫君の乾杯の発声により始まりました。歓談中に全員による自己紹介、そして崎村真君と岡田朋子さんの代表近況報告と続き、今回の幹事長の朝田博君による一発芸で大いに盛り上がり、終始明るく和やかな同窓会に酔いしれました。



高29回

還暦記念同窓会

小倉 信之



令和直前の四月二十八日、加古川プラザホテルで高二十九回の還暦記念同窓会を開催しました。五名の恩師の先生方にもご臨席いただき、百二十七名の仲間が集い旧交を温めました。卒業以来七回目を迎えた今回は、還暦記念として漫才コンビ「シューティングスター」のお二人に司会と余興をお願いし、大いに盛り

り上がりました。また、校歌と応援歌の合唱の響きはこれまでで一番大きく、再出発を迎えた皆の思いが感じられました。四年後の第八回同窓会での再会が楽しみです。

令和元年5月4日、加古川プラザホテルにおいて、高40回卒業30周年の節目にあたり、全体同窓会を開催させていただきました。

開催に先立ち、恩師、同級

生の方々で残念ながらお亡くなりになられた方々の慰霊の気持ちを込めて黙祷をささげさせていただきました。



榊田 泰広

高40回

卒業30周年記念同窓会



時間というものは思っているよりも速く過ぎていくことを最近強く意識してしまっています。例えば、テレビ番組で話題になる人達はほんの少し前まではほとんど年上だったのに、今は将棋の藤井七段や卓球の張本選手等年下の人がどんどん活躍しています。

いつの間にかお気に入り入りの小説の主人公の年齢を追い越していましたし、さらに今回の同窓会では当然、参加してくれた同級生はスーツやドレスを着ていて、記憶の中のランやセラー服を着ていた彼らとはかけ離れていて違和感が凄かったです。時間がたつのが速すぎて自分が20歳になったことが未だに信じられずに居酒屋でお酒を注文する時に謎の罪悪感を覚えてしまふほどです。しかし信じられなくても成人してしまつたことは変わらないので胸を張って大人だと言えるように努力したいです。

上田 大一郎

高69回



会員

だより

清流会
船江恒平六段（高58回）を
応援しよう。

福田 薫（高23回）

私は今、稲美町で将棋教室「稲美野将棋倶楽部」を開いています。会員は稲美町をはじめ東播磨地域から集まっています。きっかけは平成13年兵庫県が募集した第7期「心豊かな人づくり500人委員」に応募したこと。2年間講演、フィールドワークの実践を受け卒業、地域でリーダーとなって何かを始めたいと、さういふと聞かれました。そこで私は将棋を通じて青少年健全育成をしようと思い、県、稲美町と掛け合い会場の確保、規約作りまた一緒にやってみようというスタッフ、子供集めに奔走。いつの間にか準備に1年が経っていました。



平成16年4月「いなみ将棋塾」を始めました。週1回の将棋教室で会員の腕前披露のために

年1回将棋大会を開くことになりました。平成17年第1回東播磨ハートランド稲美万葉杯将棋大会を開催しました。その時の審判長が井上慶太九段（当時八段）で平成23年第7回大会まで審判長をお願いしました。平成24年、四段プロデビューした船江恒平さんに審判長が変わりました。師匠（井上慶太九段）が弟子に禅譲した形になりました。以来平成28年まで審判長として来ていただきました。

平成29年4月から半年間、船江（当時五段）さんがNHKの将棋講座の講師をされました。当然その年の将棋大会も審判長で来ていただけだと思っていたのですが、当方の希望日は既に香川県での審判長が決まっていた。聞けばNHKで人気に火がつきスケジュールがいっぱいの事。そこで一計を案じ冠大会に変更することで香川県に日程を変えてもらい、第1回船江恒平六段杯稲美野将棋大会が始まりました。同時に主催も稲美野将棋倶楽部に改組、今年も11月17日に第3回船江恒平六段杯稲美野将棋大会を予定しています。

将棋愛好家の方もそうでない方も当日会場にお越しただき、船江恒平六段を応援していただきたいと思っています。（会場は稲美町立コミュニティセンター稲美町岡園1ー1）詳細を知りたい方は

メールアドレス：
kt8823@arc.conet.ne.jp
電話：
079（492）6912
までお願いいたします。

同窓会は心の故郷

小柳 憲治（高26回）

卒業してから45年の月日が経った今年、3月に同窓会が開かれました。学生時代から京都に住み続けていて同級生との交流がなかったのだから、顔があるのか心配でした。しかし、それは杞憂でしかあ



りませんでした。あちらこちらで「オー！オー！」の声が上がって、笑い声の中で会話は和やかに進んでいきました。それはとても興味深い光景でした。恩師なのか同級生なのか判別がつかないのです。皆年を取ったんだと感じました。しばらくすると、私の心に湧き上がるものがありました。久しぶりに会った仲間との連帯感が自分自身ももって出来る、もともと遠くに行けるという勇気を与えてくれました。百万遍知恩寺の境内で手入れされた松越しに見た夕照の美しさが私の庭師の原点です。庭を見て歩き、夢窓疎石に近づいたために座禅にも通いました。最近になって庭の本質が分かりました。それは、景色に根ざした自然の美しさを表現するために庭があるという事です。得意先の一つに日本のおもてなしの粋『祇園一力亭』があります。一葉一葉に気を配って手入れをしています。ところが、去年の台風で10メートルもある木が根元から折れたり、屋根に重なる位に傾いてしまっていました。3月に大石忌があるのでそれ迄には元通りにしなければなりません。最善の方法を考え続け、事無きを得たのですが、体力の衰え、後継者の育成等の不安も感じました。しかし、今回の同窓会で気が付きました。不安は不安のままでもいいです。人はそ

んなに大差はないのです。行きてく先もそんなに変わらない。これからは、知識や技術ではなく、心の在り様こそ求められるものだと感じました。景色の良い故郷のイメージには憧れがありました。景色の中に故郷があるのではなく、人と人とのつながりの中にこそ故郷があることを気付かせていただきました。そここそ帰る所があるのです。最後になりましたが、同窓会幹事の皆様のご尽力に感謝いたします。

新たな場所へ

加古川市教育長

小南 克己（高31回）

思いもよらず、この4月から加古川市教育長を拝命しました。4年間の県立高校での校長生活から離れ、また教育行政の場に戻りました。生徒の笑い声や吹奏楽の音が聞こえず、少しさびしい思いをしています。

母校加古川東高校での勤務はわずか1年でしたが、沢山の思い出を作ることができました。生徒、教職員の皆様はもちろん清流会役員の皆様を始め、関係者の方々に感謝



いたします。

さて、今の私の執務室は市役所新館8階にあります。部屋の南東の一面は全面窓で、そこからは家々が途絶えることなく続く播磨平野の先に淡路島から明石海峡大橋を経て六甲山系の山並みが一望できます。空気の澄んだ日は、六甲の美しい稜線が鮮やかで、見飽きることがありません。これからのいろいろな課題や難題に対応していかなければならないこともあると思います。が、「忙中閑あり」ひと時、外を眺めて心に潤いと安らぎを得ることができると思っています。

また、小学校の入学式に出席させてもらいました。身長120センチぐらいの新1年生たちが神妙な顔をして会場に入場してきます。パイプ椅子に座れば、足が床に届かず、ぶらぶらさせます。学年主任の先生の声掛けで、立ち上がり、礼をすれば前の椅子に頭をぶつけます。子供たちのなんともほほえましい姿に周りの大人たちは自然と笑顔になります。

この入学式は、子供たちが小学校、中学校と義務教育の中でしっかりと成長し、巣立っていくために全力を尽くさなければと改めて自らの心に誓う機会となりました。

自分が公教育に関する仕事に初めて携わったのは、全くの偶然であり、意図するもの

ではありませんでしたが、縁があつて、県教育委員会に18年、県立高校に4年勤務した後、現職に就き、改めて思うのは教育の「かけがえのなさ」です。

学校や教員が人の成長に与える影響の大きさは計り知れません。一人ひとりの子供たちとの縁を大切に、彼らをよく知る努力を怠らず、必要な支援、指導ができる教育を目指します。

故郷 加古川と ご先祖の故郷 鹿児島の かけはしのような店に

とんかつきりしまオーナー
中村 理恵（高44回）



加古川市別府町で、とんかつ店を営んでいる

の中村と申します。

弊社、昭和51年、鹿児島出身だった祖父が弊店の前身となる「きりしま旅館」を開業し、誕生しました。祖父は、陸軍士官学校を卒業後、加古川市尾上町の教育隊に教官として赴任し、同地で高砂出身の祖母と出会い結婚。「息子には鹿児島の女性と」という祖父の思いがあつて両親がお見合い結婚。「きりしま旅館」の屋号は、祖父の故郷への思いの表れだったのでしょう。
平成14年、豚肉嫌いの父が



衝撃を受けるとんかつに出会い、鹿児島県と兵庫県の食材をメインにした「とんかつきりしま」を開店。お陰さまで今年で17年目を迎えるようになっています。

清流会の皆様にも多数ご来店いただきまして、心より御礼申し上げます。現在は、鹿児島県PRサポーターシヨップとして鹿児島と地元との架け橋のような店に、また、定期的な語学講座や異業種交流会を通じて「食・学び・交流の場」を大事に、ワクワク・温もりのある店であるよう努めているところです。

また、一方で、昨年は台湾・中国福州への海外研修の機会をいただき、日本食がどれだけ世界で愛されているかを目の当たりにし、衝撃を受けるとともに勇氣と元氣をいただきました。今後は、「とんかつ」を通じて、台湾はじめ海外の皆様との交流の機会などもできましたら嬉しく思います。最後にになりましたが、実は、弊社では私の他に父と父の親友（高17回）の計3名の清流会メンバーが長きにわたり軸として共に汗を流しております。この仕事を通じて、年代を超えて同窓生の皆様との良きご縁に恵まれ、温かいご支援

をいただいていること、また、祖父の代から始まり、父からも受け継いでいるものが多いことが、私の人生の宝物であると感じの気持ちでいっぱいになります。今後も、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

かつめしと味噌カツ

中村 理恵（高64回）

私は今年の春から、転勤で愛知県に住みはじめました。これまでの生活で、愛知に行く機会がなかったのですが、ひとつ、愛知のもので気になっていたものがありました。それは、味噌カツです。というのも、以前知人から、こんな話を聞いていたからです。

知人は愛知に遊びに行ったとき、地元の食堂メニューでかつめしそつくりの料理を見つけた。知人は、「愛知でもかつめし食べられる！」と思い、さっそく注文して食べたところ、カツにかかっていたソースは、かつめしのデミグラスソースではなく、八丁味噌をベースとした甘辛いソースだったため、かつめしじゃなかった、と衝撃を受けたとのこと。

私は、味噌カツの存在自体は知っていましたが、知人の話を聞いた当初、かつめしと味噌カツはそんなに似ているのか、と思っていました。そのため、愛知への赴任が

決まったとき、真つ先にその話を思い出し、味噌カツを食べに行きたいと思っていました。

そして、赴任して間もないころ、味噌カツを地元の食堂で食べる機会ができました。さっそく注文してできた

商品を見たところ、私も衝撃を受けました。なんと、知人の話通り、出てきた味噌カツは、かつめしにそっくりだったからです。ごはんは別になくていましたが、平皿にごはんを敷いて味噌カツを上にしたのせれば、この料理をかつめしと言われても、すぐには疑わな

いだろう、というのが最初の印象でした。一口目を口にしたら、口が広がったのはデミグラスソースではなく、甘辛い八丁味噌のソースでしたが、甘辛い味噌のソースは、食欲が進み、かつめしとはまた異なつて、おいしかったです。

愛知のご飯で、ちよつと楽しみが増えました。でも、味噌カツを食べる度に、似たような色をしたかつめしが恋しくなるので、帰省したとき

は、かつめしも食べに行こうかな、とも思っています。



追悼文

樽本庄一前市長のご冥福をお祈りして

中田 喜高（高19）



た。

1月12日に県立医療センターへ救急搬送されて以来闘病が続いておられた樽本前加古川市長が、一度も意識が覚醒しないまま3月15日の夜半に永眠されました。長きにわたる市役所生活において親しく、咳に接してきた私にとって、入院中にはお目にかかることが叶わず、お礼を言えぬままに永遠のお別れになるうとは夢にも思わぬ展開でした。

葬儀告別式は家族葬とされたので、浄土への旅立ちをお見送りできなかったことも残念でなりません。その後、5月11日に加古川市民会館で「お別れ会」があり、遺影の生前中と変わらぬ笑顔に接して、言い知れぬ寂しさを感じたところです。

私が就職した昭和46年ごろはボウリングが全盛のころで、樽本さんもマイボウルを持たれるほど熱中されていた。テニス経験者だったこともありスコアはよかったと記憶しています。また、週末には中央競馬を楽しんでおられ、常に赤色ボールペンで新聞に書き込んでおられまし





母校からのニュース

2019年度入試概況

2019年度センター試験の志願者数は576,830(昨年582,671人・前年比99・0%)、本試験の外国語受験者数も538,603(昨年548,465人・前年比98・2%)といずれも減少しました。

大学入試センターが発表した志願者数の現卒別の内訳をみると、現役志願者数は昨年の473,570人から464,950人と8,620人減少(前年比98・2%)しました。18歳人口の減少に加え、2018年度入試の難化の影響から推薦・AO入試へ回避した受験生が多かったと推測します。一方、既卒生志願者数は昨年の109,101人から111,880人と2,779人増加(前年比102・5%)し、対照的な結果となりました。

センター試験は2020年1月の実施を最後に廃止され、2021年からは「大学入学共通テスト(以下、共通テスト)」が導入されます。これは、国が進める大学入試改革の一端で、学力の3要素である「思考力・判断力・表現力」を評価する目的で新たに実施されるものです。2018年12月に公表された「大学入学共通テスト」の2回目の試行調査では、読解力を要する問題や対話形式での出題、また文章や図表など複数の素材から考えさせる設問が目立つ内容となっていました。

今年のセンター試験の問題においては、全体的には目新しい出題は少なく、傾向に大きな変化はなかったものの、昨年に続き、対話形式での出題や図の読み取りから考察する問題がみられました。たとえば、「地理B」では、さまざまな図表を用いて、読み取りと基本的な知識を結びつけて解答させる問題がみられました。また、英語「筆記」では、第3問で話し合いの発言内容をまとめる問題が出されるなど、より実践的なコミュニケーション能力を問う問題となっていました。

多くの国公立大で必要となる7科目の受験者平均点は、文系型で昨年より17・4点アップの581・1点(900点満点)、理系型で12・3点アップの583・6点(900点満点)と、どちらも大幅にアップしました。

得点分布としては、文系型・理系型とも高得点層が増加しました。主要科目である「英語(リスニング)」、「国語」の平均点上昇の影響が大きくなり、720点(得点率8割)以上の高得点層は文系型で前年比127%、理系型で前年比116%と大幅に増加しました。今年のセンター試験では、高得点を取りやすい状況だったことがうかがえます。

なお、本校卒業生の難関10大学への合格状況を簡単にまとめておきます。(内は現役生数です。東京大2(1)、京都大19(13)、大阪大21

(18)、北海道大8(8)、名古屋大3(3)、神戸大39(34)、九州大5(5)。難関国立10大学計97(82)となっています。医学科には、神戸大3(1)、鳥取大2(2)、島根大1(1)、徳島大1(1)が、それぞれ合格しました。国公立大学にはのべ323人、現役生では270人合格し、学年全体の7割弱が国公立大学に合格しました。また、主要私立大学合格者数を簡単にまとめておきま

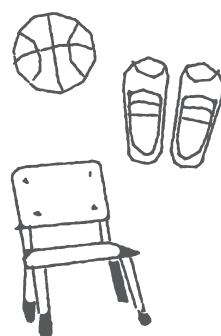
71回生 進路状況

	進 学						就職	予備校等	計
	4 年制大学			大学校	専門 学校	短大			
	国立	公立	私立						
男	84	34	12	0	0	0	1	32	163
女	78	47	54	0	1	0	1	11	192
総計	162	81	66	0	1	0	2	43	355

最近卒業生大学合格状況(延べ人数)

	平成31年3月		平成30年3月		平成29年3月	
	71回生	過年度	70回生	過年度	69回生	過年度
国立4年制大学	180	39	170	43	132	47
公立4年制大学	95	16	58	15	82	17
私立4年制大学	352	126	377	158	381	169
私立短期大学	0	0	0	0	0	0
大学校	0	0	0	0	0	0
計	627	181	605	216	595	233

す。慶應義塾大5(3)、早稲田大5(2)、同志社大39(24)、立命館大44(27)、関西大64(47)、関西学院大72(62)となっています。



茶道部近況

清流会のご支援で、平成31年3月に作法室が生まれ変わりました。畳を新調し、破れていた襖も張り替えていただきました。茶道部をはじめ、華道部、邦楽部も真っ白な襖と真新しい草の香りに包まれて、大変気持ちよく活動しています。皆で大切に使用させていただきます。ありがとうございます。

今年度は、そのすがすがしい草の香りに誘われて、1年生が8名も入部してくれました。そして、現在3年生2名、2年生3名、1年生8名の合計13名で活動しています。

大森先生のご指導のもと、文化部発表会をはじめ、クリスマスお茶会や他校との交流お茶会など、発表の場に向けてお稽古にはげんでいます。先日、文化部発表会では109人のお客様に来ていただき、お点を披露することができました。文化部発表会後からは1年生も本格的にお稽古がはじまっています。これからも部員一同、ますます精進してまいりたいと思います。今後とも応援よろしくお願いします。



茶道部文化部発表会



華道部



邦楽部

平成30年度 清流会表彰者

1.学校内での活動
(ア)部活動において優秀な成績を収めた者
①運動部：県大会3位以上の個人またはチーム（エントリー人数分）
陸上競技部（1名）

組	氏 名	顕 彰 内 容
3-9	江頭 祥生	第71回兵庫県高等学校陸上競技対校選手権大会 男子走幅跳 1位 男子三段跳 2位 第71回全国高等学校陸上競技対校選手権大会 男子走幅跳 4位

バドミントン部（重複除く 13名）

組	氏 名	顕 彰 内 容
3-1	西垣 大輝	第62回兵庫県高等学校総合体育大会 第69回兵庫県高等学校バドミントン選手権大会 男子団体 3位
3-3	車谷 一	
3-3	増田 有馬	
3-4	中嶋 伸享	
3-5	藤井 速人	
3-7	塩見 耕平	
3-1	山本 知生	同 女子団体 3位
3-2	中村 紗菜	
3-3	藤田 萌絵	
3-3	山根 啓子	
3-7	加納 波歩	
3-7	月輪 花菜	
3-7	増田 菜月	同 女子シングルス 3位
3-3	山根 啓子 (重複)	

水泳部（1名）

組	氏 名	顕 彰 内 容
3-5	信田 涼介	第10回兵庫県高等学校対抗冬季水泳競技大会 男子50m 自由形 2位 第1回近畿高等学校新人水泳競技大会 出場 第72回近畿高等学校選手権水泳競技大会 出場



②文化部：運動部に準ずる
吹奏楽部（32名）

組	氏 名	顕 彰 内 容	組	氏 名	顕 彰 内 容
3-1	三浦 大志	関西吹奏楽コンクール出場 銀賞受賞	3-6	光井 美咲	関西吹奏楽コンクール出場 銀賞受賞
3-2	秋山 結衣		3-6	元吉 美佑	
3-2	宮崎 美紀		3-7	岡本 有紗	
3-3	有田 英樹		3-7	助田 寧央	
3-3	徳本 真琳		3-7	西口 実佑	
3-3	山野 智大		3-8	井上美紅里	
3-3	山本 響香		3-8	久代 鈴菜	
3-3	湯郷日菜子		3-8	塩見 南奈	
3-4	磯野 桃圭		3-8	藤本 華帆	
3-4	前田 唯花		3-9	秋定 瑞穂	
3-5	石坂 美緒		3-9	徳永 明音	
3-5	坂野 凜		3-9	長岡さくら	
3-5	横下 雄大		3-9	西川英実佳	
3-5	山口 真穂		3-9	柳瀬 瑛美	
3-6	大西 咲奈		3-9	山崎 萌衣	
3-6	原田 紫苑		3-9	吉田 百花	

自然科学部（12名）

組	氏名	顕彰内容	組	氏名	顕彰内容
3-1	小林 秀太	・第13回日本物理学会Jr.セッション 奨励賞 ・第41回兵庫県総合文化祭自然科学部門 物理分野口頭発表 優秀賞（第38回近畿総合文化祭への出場権利獲得）（水波チーム）「水面波で浮遊物が動くメカニズムの考察」	3-1	前谷 風弥	・第13回日本物理学会Jr.セッション 奨励賞 ・第41回兵庫県総合文化祭自然科学部門 物理分野口頭発表 優秀賞（第38回近畿総合文化祭への出場権利獲得）（水波チーム）「水面波で浮遊物が動くメカニズムの考察」
3-1	高井 みく	33rd China Adolescents Science and Technology Innovation Contest (CASTIC)：中国青少年科学技術大会 金メダル（微小重力チーム） 「Using a discrete wettability gradient to design a "space pipette"」	3-2	多湖 崇人	
3-1	中野 美玖	日本地球惑星科学連合大会2018高校生セッション（真砂土チーム）	3-3	梶下 結月	・第12回高校環境化学賞 最優秀賞（防汚瓦チーム） ・第13回高校環境化学賞 優秀賞（珪藻チーム） 「珪藻土とゼオライトを用いた水中のアンモニア除去」
3-1	羽路 悠斗	「花崗岩体での植生による土砂災害抑制効果と危険地域の指摘」	3-4	入江 夏音	
3-1	尾藤 美樹		3-4	茅野 由奈	・第12回高校環境化学賞 最優秀賞（防汚瓦チーム）
3-1	藤原 圭梧	・第13・14回日本物理学会Jr.セッション 優秀賞（2年連続） ・33rd China Adolescents Science and Technology Innovation Contest (CASTIC)：中国青少年科学技術大会 金メダル（微小重力チーム） 「Using a discrete wettability gradient to design a "space pipette"」	3-4	中野 勝太	日本地球惑星科学連合大会2018高校生セッション（真砂土チーム） 「花崗岩体での植生による土砂災害抑制効果と危険地域の指摘」

SSH 課題研究（5名）

組	氏名	顕彰内容
3-1	前田 歩香	SSH生徒研究発表会 全国大会出場
3-1	木下 駿	
3-1	高橋 宗万	
3-1	爲則 裕介	
3-1	山端麻祐子	



2.学校外での活動

(イ)その他（重複のぞく 4名）

組	氏名	顕彰内容
3-3	伊東 稜平	第12回 科学地理オリンピック日本選手権 銀メダル
3-1	日浦 直紀	第17回 日本情報オリンピック 本選出場
3-1	北井 敦也	数学・理科甲子園2017兵庫県予選 準優勝
3-1	小林 秀太（重複）	
3-1	中野 美玖（重複）	
3-1	日浦 直紀（重複）	
3-1	藤原 圭梧（重複）	
3-1	丸山 紘矢	

母校の人事異動

■退職された方

校長	小南 克己
校 長	加古川市教育長へ
事務長	股野 孝司
考古博物館加西分館（分館長補佐）へ	
教 諭	坂田 充範 国語
本校再任用へ	
教 諭	猪股 雅美 理科
臨時講師	船本 啓三 理科

■離任された方々

教 頭	佐野 正明
高砂高等学校 校長へ	
教 諭	小山 宣伸
英語 長田高等学校へ	
教 諭	福本 寛之
数学 加古川西高等学校へ	
教 諭	野間 良重
数学 教育研修所（指導主事）へ	
教 諭	山本 大介
保健体育 三田祥雲館高等学校へ	
教 諭	西田 薫
国語 上海日本人学校へ	
主 査	瀧口 ゆき
淡路高等学校（事務長）へ	
臨時校務員	片岡 博子
加古川北高等学校（臨時事務職員）へ	

■着任された方々

校 長	清瀬 欣之
教育研修所 所長より	
教 頭	荒神 重典
松陽高等学校 教頭より	
事務長	六車 進吉
阪神教育事務所 副所長より	
教 諭	坂田 充範
国語	本校退職再任用
教 諭	池田 泰子
英語 明石西高等学校より	
教 諭	南越 家雨
数学 姫路南高等学校より	
教 諭	白井 陽
理科 舞子高等学校より	
教 諭	吉川 明志
保健体育 農業高等学校より	
臨時講師	牧野 真幸
保健体育 本校非常勤講師より	
臨時講師	大野 千尋
国語 三重県立伊勢高等学校より	
主 査	豊田 真衣子
考古博物館加西分館より	
臨時校務員	中野 鶴美
加古川南高等学校より	

※昨年度より継続して本校再任用の職員は除く



ふるさとひょうご寄附金
“県立学校環境充実プロジェクト”で

東高を応援!

卒業生の皆様・地域の皆様よろしく申し上げます



加古川東高校に「新たな学びの創造と教育環境の充実」を

高 *To the New Frontier*

1924(大正13年)創立 兵庫県立加古川東高等学校 普通科・理数科

ふるさとひょうご寄附金制度を利用して、東高を応援してください!

お住まいの自治体に納めている住民税などから一定限度まで控除される場合があります。

加古川東高校は約1世紀に渡る歴史があります。地域、日本、そして世界で活躍する人材を多く輩出してきた伝統校です。加古川東高生の活躍は地域の活躍でもあります。生徒達の更なる活躍のためには皆様のご支援が必要です。どうぞよろしくお願いします。

寄附金を活用する事業

(寄附金の具体的な使用方法)

- ① 新たな学びの充実に向けた環境整備
 - ② 国際交流の充実
 - ③ 部活動の充実へ向けた環境整備
- 昨年度は
- 1 3年生の全教室にプロジェクターを設置
 - 2 英語教室(LI教室)の床改修・机、椅子の新調・プロジェクターの設置に使わせていただきました。

《寄付の申し込み方法》

裏面の申出書を本校事務室へ FAX などでご提出ください。ご不明な点がございましたら、本校事務室(079-424-2726)までお問い合わせください。

また、制度の新しい説明は兵庫県教育委員会財務課ホームページをご覧ください。

公益財団法人青松会から

理事長 水埜 安寛（高15回）

加古川東高校には
奨学金の給付事業を行う公益財団法人青松会があります

青松会は、次代を担う生徒に対する就学援助を行い、その心身の健全な育成を図ることを目的として、清流会会員により設立されました。平成24年4月兵庫県より公益財団法人青松会の認定を受けました。

青松会は、昭和50年設立以来44年延べ600人を超える学生生徒に対して奨学金の給付事業を行っています。

青松会は、奨学金の給付財源を、基本財産の運用と清流会会員の皆様からの寄付金によっています。

清流会会員の皆様の寄付金をお待ちしています。

公益財団法人青松会に対する寄付金は、税法上、寄付金控除の対象になります。

青松会を、より多くの清流会会員の皆様に知って頂き、ご支援を頂くようお願いし、同窓会報（清流）に掲載させていただきました。

青松会は、下記の役員により、青松会奨学金の給付事業を行っています。

公益財団法人青松会 役 員

令和元年 7 月 1 日

理 事 長	水埜 安寛（高15）				
副理事長	大庫 俊介（高19）	岡田 義則（高23）			
専務理事	山田 拓史（高13）				
理 事	泉 正紀（高25）	大西淳滋郎（高29）	坂田 克己（高36）	藤本 陽一（高24）	
	松尾 将勝（高27）	水埜 浩（高33）	森本 幸吉（高28）	脇谷 政孝（高33）	
監 事	渋谷 哲（高28）	三宅 隆宏（高14）			
評 議 員	大西 壯司（高21）	加古 武史（高36）	籠谷 紘義（高13）	釜谷 研造（高2）	
	十倉 茂明（高9）	富田 鉄哉（高8）	宮宅 勇二（高24）	山口 勝英（高15）	
	吉山 徹（高15）	清瀬 欣之（加古川東高校校長）			

人生の岐路を振り返って

社会保険労務士法人NSR
代表社員

西川 みさき（高32回）



加古川東高等学校を卒業して早や40年となります。卒業当時、40年後の自分を想像することすらできませんでした。振り返ってみれば大学進学は、私の人生にとって大きな分岐点でした。

3年生の夏、父が癌になり同時に失業しました。当時、兄は大学生、妹も高校進学を控えていました。家のローンもありましたし、両親はかなり苦労していたと思います。4年制の大学は諦めて就職かせめて短大かどちらかにしてほしい、それが母の願いでした。もしも合格しなければ就職すると宣言して、4年制の大学を受験しました。当時は、女の子は就職して間もなく結婚するだろうから短大ぐらいでよい、そんな風潮だったと記憶しています。

合格発表の日、私は大学まで足を運んだものの、貼り出された合格者の受験番号を確認しに掲示板に近づくことに躊躇してしまい、一緒に行った友人が見てくれて合格を知ったのでした。合格しても

素直に喜べないような気がして複雑な思いだったのかもかもしれません。

現在、社会保険労務士としての業歴は20年になります。今思うことは、あのとき諦めなくて良かったということです。大学の教育学部を卒業してから、教職にも就かず、転職も何度か経験しましたが、すべての経験が今の仕事に繋がっています。企業の健全な発展と労働者の福祉の向上を図ることが、経営者も従業員も働くすべての人が物心ともに豊かに生きられる社会を創りたいと思い続けてきました。このように毎日を送ることができるのも、行きたいというなら行かせてやりたいと決断してくれた両親、そして進学を諦めかけたどうか悩む私を支えてくださった先生方、大学生活を支えてくれた返済不要の奨学金のおかげです。

最近の奨学金返済の延滞で自己破産などというニュースを見ると心が痛みます。同時に、なんと自分は恵まれていたのかという思いが今更ながら湧いてきます。いただいた額には遠く及びませんが、ささやかでも今後もできうる限り長く寄付を続けていきたいと思っています。青松会の奨学金給付事業が、家庭の事情などで進学が困難な学生の支えとして今後も継続されることを願ってやみません。卒業生の皆様には、本事業の趣旨へのご賛同と青松会へのご支援いただき、奨学生OGとして心より感謝申し上げます。

役員一覧

令和元年6月1日現在

元会長 山口勝英 (高15)
前会長 大西壮司 (高21)

会長 大庫隆夫 (高28)

副会長 岡田義則 (高23)
岡山幸義 (高28)
大西淳滋郎 (高29)
北野砂恵子 (高29)
鈴木利信 (高31)
黒田昌宏 (高37)

会計監査 泉正紀 (高25)
土屋光世 (高27)

会計内藤三恵 (高12)
宮宅勇二 (高24)

書記 吉原好美 (高45)
得田恵司 (高48)

総務委員

畑谷 芋一 (高3)
長谷川 募 (高12)
籠谷 紘義 (高13)
宮宅 勇二 (高24)
◎坂田 亨 (高35)
高松 智子 (高36)

細川 恵美子 (高37)
○藤本 准一 (高43)
山本 鉄平 (高45)
○大野 恭平 (高46)
三井 尊文 (高48)

文化委員

菅野 正子 (高13)
○岩坂 純一郎 (高20)
川西 幹雄 (高20)
網谷 純子 (高21)
久保 一人 (高22)
◎丸山 浩之 (高30)
佐野 裕美 (高30)
西川 陽子 (高30)
大竹 恭子 (高30)
玉野 ますみ (高30)
小林 直樹 (高33)
○岡崎 美和子 (高33)
阿野 康子 (高39)
島崎 純子 (高43)
柘植 厚人 (高43)
長谷川 潤子 (高43)
宗和 素子 (高46)
岡 毅 (高50)

体育委員

能田 達三 (高12)

藤原 真理子 (高20)
石堂 求 (高22)
福岡 照文 (高23)
三村 浩之 (高24)
梅谷 誠一 (高24)
◎井岡 徳多郎 (高28)
○坂下 雅一 (高29)
大窪 義崇 (高29)

校長 清瀬 欣之

校内幹事 井上 浩義 (高30)
荒神 重典 (高34)
松下 博昭 (高35)

事務長 六車 進吉

事務局 岸本 敦子 (高31)

(◎は各委員会の委員長)
(○は副委員長)

●清流会事務局の執務案内●

清流会事務局は、母校内の清流館3階にあります。
岸本敦子さん(高31回)が事務局員として執務しています。
執務日は毎週月曜日と木曜日の午前中です。

TEL: 079-421-0373

FAX: 079-421-8464

TEL: 079-424-2726 (緊急時学校)

メールアドレス:
kakohigashiseiryukai@topaz.ocn.ne.jp

<地域支部>

- 東京支部
松井昭憲 (高30回)
横浜市青葉区
- 大阪支部
山本俊輔 (高25回)
加古郡稲美町
- 奈良支部
板倉敬則 (高18回)
奈良市山陵町
- 姫路支部
平田建喜 (高19回)
高砂市美保里
- 明石支部
森本真一 (高21回)
明石市大久保町
- 稲美支部
西川征志郎 (高12回)
加古郡稲美町

<職域支部>

- 県庁支部
古川直行 (高30回)
加古川市加古川町
- 神戸教職員支部
池田浩二 (高39回)
加古郡播磨町
- 三井住友銀行支部
岸本享祐 (高38回)
横浜市区

年次幹事一覧

令和元年6月1日現在

糟谷一郎(中8)	水埜安寛(高15)	沼田勝彦(高31)	正木一行(高45)	廣島麻衣子(高59)
井澤一勝(中13)	山口勝英(高15)	大西賞典(高32)	山本鉄平(高45)	井上紗和子(高60)
武田秀男(中14)	山崎朝美(高15)	岸本真弓(高32)	岸本敏英(高46)	尾上馨(高60)
長谷川和夫(中17)	大下一興(高16)	林和也(高32)	中塚佳子(高46)	山本明日美(高60)
高倉幸七(中18)	清田康之(高16)	劉美鈴(高32)	松林勲(高46)	松尾弘毅(高60)
粕谷衛(中19・20)	小林弘子(高16)	池澤文隆(高33)	大森達也(高47)	木村拓也(高61)
金川俊成(高1)	小山美知代(高16)	田中章子(高33)	吉村博隆(高47)	青田亜希(高61)
永井万介(高2)	田中靖子(高16)	名定啓介(高33)	赤江泰介(高48)	豊田成隆(高61)
釜谷研造(高第2)	田村明(高16)	西山和仁(高33)	待鳥繁隆(高48)	原佳織(高61)
畑谷芋一(高3)	松尾勝良(高16)	後藤昌之(高34)	本岡文亜(高48)	穂山隼也(高62)
田中愛子(高4)	三宅英璋(高17)	成定淳子(高34)	魚屋由美(高49)	來住翔太(高62)
藤田勇(高4)	森岡史朗(高17)	水埜正彦(高34)	藤原良(高49)	杉田耕介(高62)
内山慶人(高5)	永井一(高18)	釜谷泰造(高35)	安田薫(高49)	三木原良輔(高62)
鷺澤素子(高5)	清水賢二(高19)	小山三佳(高35)	家氏純子(高50)	新田薫(高63)
菅原啓文(高5)	仲上常幸(高19)	加古武史(高36)	妙中いつか(高50)	西田早織(高63)
石原謙一(高6)	岩坂純一郎(高20)	小嶋志之(高36)	北江直樹(高50)	蓬萊翔吾(高63)
坂田雅文(高6)	藤原真理子(高20)	野上稔(高36)	森本龍介(高50)	菅藤理也(高64)
西海郁雄(高6)	北条雅紀(高21)	藤城奈律枝(高36)	河田直子(高51)	佐伯直澄(高64)
西谷正(高6)	石堂求(高22)	新井睦美(高37)	澁谷恒一(高51)	野田葵(高64)
立花幸子(高7)	山崎敏美(高22)	黒田昌宏(高37)	長澤達朗(高51)	松本悠希(高64)
藤原義昭(高7)	金川種弘(高23)	長谷川哲也(高37)	原敏生(高51)	永井翔龍(高65)
石山昌子(高8)	林郁朗(高23)	田中勇一(高38)	小阪田泰子(高52)	正川みのり(高65)
井上勝博(高8)	岩本善典(高23)	初瀬富美子(高38)	荻野心平(高52)	見塚圭一(高65)
富田鍬哉(高8)	小林達子(高24)	片山憲一(高38)	柏井康彦(高52)	米田奈生(高65)
磯野達(高9)	三村浩之(高24)	別所眞(高39)	林郁子(高52)	伊賀優花(高66)
上田佳子(高9)	安田しをり(高24)	松井亜希子(高39)	川田直寛(高53)	木村雄亮(高66)
十倉茂明(高9)	衣笠仁浩(高25)	三谷佳裕(高39)	堰本愛(高53)	千歳吾朗(高66)
内藤美栄子(高9)	小林孝子(高25)	西川隆博(高40)	中山智裕(高53)	津村海謡(高66)
井原源介(高10)	沢田敏郎(高25)	堀井信明(高40)	桑野浩(高54)	池野和之介(高67)
大辻利弘(高10)	山本普子(高25)	前田恵美(高40)	西田寛(高54)	坂本晴輝(高67)
神吉賢一(高10)	下村浩司(高26)	頼洋理子(高40)	藤井美穂(高54)	中村遥佳(高67)
長谷川好一(高10)	畠房生(高26)	北川寿一(高41)	井上祐輔(高55)	三好菜月(高67)
内田明美(高11)	本岡茂範(高26)	小牧清彦(高41)	中原初実(高55)	南奈緒(高68)
後藤太原麿(高11)	浅場知洋(高27)	鹿間聖(高41)	砂川祐子(高55)	吉田篤史(高68)
土師さか系(高11)	網干美保(高27)	平田ひとみ(高41)	庄司博美(高56)	溝口真梨奈(高68)
原雅子(高11)	上野均(高27)	生田聡(高42)	門地あゆみ(高56)	遠藤由基(高68)
阿江縫子(高12)	井岡徳多郎(高28)	坂本佳恵(高42)	八木勇磨(高56)	畑颯太(高69)
長谷川募(高12)	松本高亮(高28)	吉井妙(高42)	田中章浩(高56)	渡邊千加(高69)
松田欣治(高12)	森本幸吉(高28)	今井甲二郎(高42)	東達也(高57)	塩谷優(高69)
山口久子(高12)	城伸幸(高29)	掛川佳世子(高43)	大滝翔(高57)	上田大一郎(高69)
籠谷紘義(高13)	新田順子(高29)	宮本雅之(高43)	前田瑠依(高57)	長谷川和弥(高70)
菅野正子(高13)	松下正明(高29)	井上智史(高44)	稲岡孝介(高58)	山本悠太(高70)
堀井扶佐子(高13)	猪子真一(高30)	岡本賢裕(高44)	山田昌代(高58)	樋口夕希子(高70)
竹内和弘(高14)	西岡拓代(高30)	筒井利典(高44)	藤村泰仁(高58)	橋本満理奈(高70)
松崎正俊(高14)	川口和代(高31)	田中かおり(高45)	永島陽子(高58)	南利昂汰(高71)
三宅隆宏(高14)	佐伯明子(高31)	高塚香織(高45)	大西賞尚(高59)	信田涼介(高71)
住友義男(高15)	鈴木利信(高31)	原田かおり(高45)	籠谷真奈(高59)	福田めぐみ(高71)
福田嘉子(高15)	玉奥満(高31)	北條俊正(高45)	島津高英(高59)	松本夏実(高71)

平成30年度 清流会収支決算書

(平成30年6月1日～令和元年5月31日)

収入の部

決算額－予算額＝マイナスの時▲

単位：円

科 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
1. 会 費 等 収 入	8,000,000	7,821,500	▲ 178,500	
卒 業 生 会 費	6,750,000	6,441,000	▲ 309,000	3,000円×2147件（前年度：6,585,000）
在 校 生 会 費	1,220,000	1,214,500	▲ 5,500	
特 別 寄 付 金	30,000	166,000	136,000	21件
2. 雑 収 入	1,500,000	1,478,046	▲ 21,954	総会、新年会、利息、クオカード他
3. 周 年 事 業 よ り	0	484,770	484,770	
4. 前 年 度 繰 越	2,550,602	2,550,602	0	
合 計	12,050,602	12,334,918	284,316	

支出の部

決算額－予算額＝マイナスの時▲

単位：円

科 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
1. 事 務 費	1,220,000	1,130,606	▲ 89,394	
事 務 手 当	650,000	623,000	▲ 27,000	
消 耗 品 費	100,000	83,140	▲ 16,860	文具、コピー他
通 信 費	230,000	193,032	▲ 36,968	電話、ハガキ他
振 込 手 数 料	230,000	216,662	▲ 13,338	年会費振込手数料他
雑 費	10,000	14,772	4,772	残高証明手数料他
2. 会 議 費	160,000	110,630	▲ 49,370	
諸 会 合 費	120,000	92,441	▲ 27,559	オール・本部役員会
総 務 委 員 会 費	20,000	5,739	▲ 14,261	
文 化 委 員 会 費	10,000	12,450	2,450	
体 育 委 員 会 費	10,000	0	▲ 10,000	
3. 事 業 費	9,320,000	8,584,355	▲ 735,645	
総 会 ・ 新 年 会 費	2,000,000	1,765,305	▲ 234,695	総会167名、新年会78名
清 流 発 行 発 送 費	4,500,000	4,352,955	▲ 147,045	
会 員 美 術 展 開 催 費	350,000	237,079	▲ 112,921	
ゴ ル フ 等 開 催 費	20,000	20,000	0	ゴルフ・グラウンドゴルフ大会
支 部 活 動 費	650,000	600,000	▲ 50,000	支部会、年次会祝い他
旅 費 交 通 費	300,000	241,000	▲ 59,000	支部会への出席旅費交通費他
部 活 動 等 助 成 金	800,000	805,908	5,908	部活動支援
国 際 交 流 助 成 金	200,000	200,000	0	
奨 励 表 彰 費	400,000	327,108	▲ 72,892	新入会員記念品、表彰
慶 弔 費	100,000	35,000	▲ 65,000	お祝い、弔電、餞別等
そ の 他	0	0	0	
4. 予 備 費	1,050,602	0	▲ 1,050,602	
5. 周 年 事 業 支 出	300,000	300,000	0	周年事業支出
6. 次 年 度 繰 越		2,209,327	2,209,327	
合 計	12,050,602	12,334,918	284,316	

収入 12,334,918 支出 10,125,591 次年度繰越 2,209,327

周年記念事業等特別会計決算書（2019年5月31日） 単位：円

項 目	金 額	摘 要
前 年 度 繰 越 金	8,206,879	ゆうちょ銀行定額貯金 2,808,000 ゆうちょ銀行総合 2,667,237 三井住友（スーパー定期4口） 2,731,642
一 般 会 計 へ 繰 出 金	▲ 484,770	利息21含む
一般会計からの繰入金	300,000	
利 息	178	
合 計（次年度繰越金）	8,022,287	ゆうちょ銀行定額貯金 2,808,000 ゆうちょ銀行総合 2,967,261 三井住友（スーパー定期3口） 2,247,026

教育助成基金会計報告書（2019年5月31日） 単位：円

項 目	金 額	摘 要
前 年 度 繰 越 金	8,654	三井住友（普通）
利 息	0	
支 出	0	
合 計	8,654	次年度へ繰越

監 査 報 告

平成30年度決算、並びに周年記念事業等特別会計について、通帳、諸帳簿を監査した結果、すべて正確かつ適切に記入されていることを報告します。

2019年6月10日

会計監査 泉 正 紀
会計監査 土 屋 光 世

平成30年度事業報告書

事業名	開催回数
総会	1
新年懇親会	1
会計監査	1
新年次幹事懇談会	1
本部役員会	5
オール役員会	1
総務委員会	8
文化委員会	3
体育委員会	2
入会式	1
支部総会	8
年次同窓会	12

叙勲・褒章・表彰のお祝い

各界で活躍されている清流会員で、叙勲、褒章、表彰などを受章された方々を祝意を込めて紹介させていただきます。(順不同、敬称略)

全ての情報が必ずしも事務局に寄せられているわけではありませんので、ご紹介できずに失礼していることがあると思います。

今後ご紹介を続ける予定ですので、情報をお寄せ下さるようお願いいたします。

<2018年秋の叙勲>

瑞宝双光章	加藤 敏雄 (高11回)	元公立中学校校長
旭日小綬章	西川 隆雄 (高13回)	金呂藩協同組合連合会長
瑞宝双光章	渡辺 進市 (高13回)	元警視長
瑞宝双光章	曾根 真正 (高15回)	保護司

<2019年春の叙勲>

瑞宝中綬章	神吉 賢一 (高15回)	兵庫県立大学名誉教授
瑞宝小綬章	田寺 和徳 (旧職員)	元公立高校校長
瑞宝中綬章	平田 建喜 (高19回)	元山形地検検事正

委員会からの報告

総務委員会

委員長 坂田 亨 (高35回)

総務委員会では、年会費納入率や総会への参加率の向上、同窓会行事の内容充実をテーマに協議を重ねています。今年度は2020年発行の会員名簿の作成準備に入ります。皆さまには、あて先不明者の情報提供にご協力をお願いします。

また現在、納入のPR、納めやすくする工夫などを検討中の年会費ですが、納入がまだの方はぜひ下記へお振込をお願いします。

会費納入先:

但陽信用金庫 本店 普通 口座番号 5385680

恒例となっています総会(平成30年8月5日開催)は19才~88才まで、165名の参加があり、親睦を深めると共に福引で素敵な景品を持ち帰っていただきました。また、新年会(平成31年1月11日開催)には77名の参加があり、アコーディオン奏者の島崎純子さんの生伴奏での即興カラオケが好評でした♪

本年度の総会は令和元年8月4日(日)午前11時からのお予定です。大勢の参加をお願いします。

最後に、支部等の設立や同窓会事業へのご相談やご提案があれば、清流会事務局(電話079-421-0373、月、木の午前中)へお気軽にお問合せ下さい。

文化委員会

委員長 丸山 浩之 (高30回)

清流第54号も20ページの構成となりました。寄稿にご協

力いただいた会員の皆様、本当にありがとうございました。これまでに無いこととしては、今回は特に「清流文庫」の紹介記事の関連で、そのリストを別紙で添付しております。

私にとっては、新任でいきなりの委員長は荷が重いのですが、委員の皆様や本部役員のご協力をいただきながら務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

体育委員会

委員長 井岡 徳多郎 (高28回)

平成30年度体育委員会では、二つの事業を行いました。

①第116回清流会ゴルフ大会を平成30年9月13日に加古川ゴルフ倶楽部にて開催致しました。

優勝は明石 知史朗様(高16回)、準優勝 三村 浩之様(高24回)でした。おめでとうございます。

②第13回清流会グランドゴルフ大会を平成31年4月12日に日岡山公園サッカー場で開催いたしました。

優勝は大西 康彦様(高18回)、準優勝 岸田 信様(高8回)でした。桜満開の陽気の中、皆さん元気一杯楽しくプレーされていました。

令和元年度も引き続き二つの事業を予定しております。

①第117回清流会ゴルフ大会

日時: 令和元年9月12日(木) 場所: 加古川ゴルフ倶楽部

②第14回清流会グランドゴルフ大会

日時: 未定(春先の暖かい時期) 場所: 日岡山公園サッカー場

※初参加の方も含めて、皆様と楽しい時間をすごしたいと思っていますので多くの参加をお待ちしております。

清流会からのお知らせとお願い

地域支部総会・職域支部総会・年次会について

開催されるときは、本部事務局へご連絡をお願いします。会長(代理)がお祝金をお届けし、母校の近況報告をさせていただきます。

年次会の開催にあたっては、案内状発送の便宜を図るため、年次会員の宛名シール等を用意いたします(但し有料です。詳しくは事務局まで。)

住所など変更の場合

住所、氏名などに変更が生じたときは事務局へご連絡ください。

お祝いについて

1. 還暦・古稀・傘寿・米寿・白寿のお祝いはすべて3,000円とします。(但し、総会出席者のみです)
2. 叙勲・褒章受章は祝電をお送りします。

会員死亡の場合

全会員を対象に弔電をお送りいたしますので、事務局へお知らせください。(香料は差し上げていません)

特別寄附金で協力をお願い

同窓会費は在校生の部活動の支援にも使わせていただいています。在校生の活躍は同窓生にとっても大きな喜びですが、それなりの費用がかかるのもまた現実問題としてあります。

年次同窓会での余剰金や慶事記念行事の際などにご寄附いただければ幸いです。

会員の皆様に年会費納入のお願いをした上に、誠に心苦しいのですが母校支援のための特別寄附金(金額はいくらでも結構です)のご協力をお願い申し上げます。

同封の振込用紙をご利用ください。

但陽信用金庫本店営業部 普通5461365
兵庫県立加古川東高等学校清流会特別寄附
会長 大庫 隆夫

母校図書室に

東京支部・井上晴規（高7回）

昨年春、同窓生にとつて嬉しい事がありました。それは高25回・渋谷秀樹氏（立教大・大学院教授）の著書『憲法への招待』が高校生向け教科書『新精選 現代文B』に採用され、それを用いて母校生徒さん達が学んでいる姿です。先輩の本を後輩が授業で学ぶ。旧制加古川中学・加古川東高校の長い歴史の中でも初めての快挙ではないでしょうか。この慶事を機に「卒業生の書いた本、ゆかりの本」を母校図書室に贈る活動に同窓生皆さんのご協力を頂戴したいとの熱い想いで、松井昭憲支部長（高30回）にご相談し、僭越ながら東京支部として昨秋から呼び掛けをさせて頂きました。

10年ほど前、加古川駅前の書店で「東高卒業生の書いた本コーナー」を見掛け大きな感動を覚えました。その店頭に積まれていたのは首藤由之氏（高30回）の著書『ねんきん定期便』活用法』だったのです。この時、絶対に母校図書室に卒業生の書いた本を集結するのだとの啓示を受け、その想いを胸に秘めていました。が今回渋谷氏の快挙が背中を押してくれたのです。お隣の白城会（姫路西高）では「白城文庫」があり100点を越す蔵書があります。又、蜻蛉会（小野高）では「卒業生の本は、ほとんど取り揃えている」と伺いました。

「清流文庫」の名前は自然に浮かびました。この想いが実を結べば、先輩が先輩の努力の精華を学び、同窓生が活字を通して強い絆で結ばれます。これは素晴らしい事です。図書担当の先生は「最近、本を読む生徒が増えた」と語られて

いました。今回、皆さんから寄せられた本には、年次・お名前が署名されています。そして可能な限り献辞（添え書き）をお願いしました。手に取った生徒さん達も先輩の温もりを、きつとお感じになる事でしよう。学校当局のご理解を頂きこれが実現した事、大きな喜びであります。先生から届いた一葉の「形となった清流文庫の姿」を手にした時、老人は思わず眼が熱くなりました。

その後、生徒さんからもお手紙を頂き「先輩の本を読んだ喜び、そして在校生の多くが手に取ることでしよう」と感謝の言葉が綴られていました。又「清流文庫」をきっかけに、先輩方から続々と蔵書が寄贈されています。手前どもの力不足で呼び掛けが届けられなかった卒業生の方々も、拙文を機にご賛同賜れば更に大きな喜びであります。この小さな芽吹きがやがて大きな幹となり、これから清流会本部・受け入れ窓口経由で新刊著書を母校に寄せる慣例が「清流会の良き伝統」となる事でありますように。

「清流文庫」は現在、母校図書室入り口近くに専用コーナーを設け、開架しています。卒業生の皆様のご厚意により、今後充実させていくことが出来ればと考えています。ご協力いただける方は、恐縮ですが清流会宛にお送り下さい。



送付先
〒675-0039
兵庫県加古川市加古川町粟津232-2
加古川東高校内 清流会
TEL 079-421-0373
FAX 079-421-8464

令和元年度 清流会総会

～ 光はつねに東より ～

恒例の総会が近づいてきました。会員であればどなたでも参加可能です。お誘い合わせのうえご出席下さいますよう、ご案内申し上げます。

- 日時 令和元年8月4日（日）
11:30～（受付11:00～）
会場 加古川プラザホテル（Tel: 079-421-8877）
会費 6,000円
次第 ①総会
②在校生によるアメリカ研修報告
③講演 竹花 豊氏（高20回）
元東京都副知事、元警察庁局長
認定NPO法人おやじ日本理事長
④懇親会（豪華景品の福引あり）

- ◎ご出席の方は、同封のハガキで7月26日までにご返信ください。
◎懇親会では、白寿（中11）米寿（高3・併中1）傘寿（高11）古希（高21）還暦（高30）の方へお祝いをしております。該当する回生の方は、ぜひご出席ください。
◎各支部長・評議員様は、10時からの全国支部長会・評議員会にご出席をお願いいたします。

清流会ホームページ



清流会では、ホームページも開設しております。

<http://seiryu-kai.jp/>

年次会の案内や報告にご利用ください。会員のトピックスなども歓迎いたします。

東京支部や稲美支部のホームページにもリンクしています。ぜひ、ご覧ください。

facebookの清流会グループページもご利用ください。

<https://www.facebook.com/groups/seiryu/>

年会費納入のお願い

清流会の事業は会員の皆様からの年会費でまかなわれています。近年は会費納入者が逡減化の傾向にあります。在校生の支援や同窓生の交流事業を進めるために年会費3,000円の納入をお願いいたします。納入期限は令和2年5月31日になっておりますが、早期の納入にご協力を重ねてお願いいたします。

納入に際しては同封の振込用紙（コンビニ、郵便局、但陽信用金庫）をご利用ください。手続きが初回のみで済み、毎年窓口で振り込む手間が不要になる但陽信用金庫の「定額自動送金サービス」を利用して納入することもできますのでご利用ください。

会費納入先：但陽信用金庫 本店 普通 口座番号 5385680

会費納入者 3,000人目標！（平成30年度 会費納入者2,147人）